

第2回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in 西川町

【と き】 平成21年6月19日（金） 14:00～16:00

【ところ】 西川町交流センター あいべ

【参加者】 参加者総勢 130名



- 【1 観光誘客に向けて交通機関の整備及び人材育成について】
- 【2 月山登山道の木道の改修について】
- 【3 六十里越街道の広域連携と地すべり対策について】
- 【4 中山間地直接支払い制度の継続について】
- 【5 水田の畑地化について】
- 【6 肥料・飼料の値上がりについて】
- 【7 杉の間伐材の適切な実行について】
- 【8 チップに対する運賃補助の継続について】
- 【9 県産材の公共用施設への活用について】
- 【10 森林研究センター（試験実習林）の活用について】
- 【11 統合小学校新築問題について】
- 【12 過疎地域の高齢者対策について】
- 【13 高齢者社会における生涯学習について】
- 【14 少子高齢化社会における結婚対策について】
- 【15 子ども政策室設置の成果について】
- 【16 婦人会活動について】
- 【17 弓張平運動公園の利用状況について】
- 【18 合併浄化槽設置に係る助成について】

【1 観光誘客に向けて交通機関の整備及び人材育成について】

☆ 観光振興を担っております月山朝日観光協会会長でございます。吉村知事、ようこそ観光の町、西川においでいただきましてありがとうございます。また、今年の5月31日には、私が議長を務めますライオンズクラブ東北大会で励ましのお言葉をいただきましたことに対して、この場をお借りして一言お礼を申し上げたいと思います。

さて、知事もご承知の通りこの西川町は、月山朝日連峰に囲まれた県内屈指の自然観光素材の沢山ある町であります。特に、月山では、4月10日にオープンする月山夏スキー、夏のフラワートレッキング、秋の紅葉トレッキング、そして冬のスノーシュートレッキング、四季のそれぞれの魅力を生かしながら観光誘客に取り組んでおります。近年は、月山夏スキー場の韓国人スキーヤーの誘客にも努めております。今年、ウオン安、新型インフルエンザ等の影響により、昨年と比べて減少はしていますが、昨年は、延べで370名を超える韓国人にお越しをいただけるようになりました。これも県の支援のたまものではありますが、特に山形県ソウル事務所には、韓国エージェントとの架け橋になっていただいております。今後とも、継続的な措置をお願いしたいと思います。

また、本町で力を入れている観光の取り組みとしては、小中学生の教育旅行でございます。現在、本町で大井沢地区には、仙台圏等から3000名程の子供達に来て民宿に宿泊し、農業や自然体験をしていただいております。今年昨年と比べて、約1000名の増加となりました。さらには、現在国において、全国の小学校の農村体験を推進する「ふるさと農山村漁村子供交流プロジェクト」を実施しておりますが、本町は県内第一号の指定を受けておまして、教育旅行のさらなる受入れ整備を図るため、関係者一同がんばって取り組んでおります。

また、出羽三山信仰の六十里越街道につきましても、県でも街道の復元整備に積極的に取り組んでいただいております。現在、特に進めておりますのは、本道寺への口乃宮湯殿山神社からルートの中で、寒河江ダム周辺で分断されています。地元として何とか繋げて行きたいと、県を通して国土交通省等の関係各位の協力をお願いし、整備を図っております。その街道のルートの中には、広大な椿の群生地等もあり、新たな見所も発見されております。ただ今、ご紹介させていただきました通り、本県の観光の一助となるべく積極的に観光振興を図ってまいります。しかし、お客様の足の確保、環境の維持、保全、さらには人材育成等、まだまだ多くの課題もございます。今後とも、個々の問題について、それぞれ県の担当の皆様とご相談を申し上げますので、知事におかれましても、今後とも観光振興、発展に絶大なるご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

以上、申し上げます。どうもありがとうございます。

【2 月山登山道の木道の改修について】

☆ 月山の方で働いています。月山の観光について、この前も申し上げたんですけれど、

木道ですね、非常に悪いんですよ。全国から客が来られます。九州から北海道まで、今、スキーシーズンで大変賑わっていますけれども、これから夏山シーズンになります。そうした時に、木道が途中から折れております。或いはですね、傾斜がつきまして非常に歩きづらい、そんなことでお客様からも指摘がございます。是非、木道の改修についてお願いしたいと思っております。是非、その辺ご配慮をお願いしたいなあと思っております。

【3 六十里越街道の広域連携と地すべり対策について】

☆ 月山志津温泉で旅館をやっている者でございます。さっき、観光協会長からも月山のスキーとか、登山とかのご紹介ありましたけれども、私達、今一番関心を持っているのは地すべりの件でございます。大網の七五三掛地区のあの地すべりの実態を大変気に掛けて、まるで他人事のように思えないというふうに実感しております、月山の国交省の直轄事業ということで、県の方でも大変大きな負担を強いられているようでございますけれども、知事さんにおかれましても、その緊急性ということを認識していただいて取り組んでいただいていることに関しまして、大変うれしくお礼を申し上げたいというふうに思っております。こういう地すべりが一旦起きてしまうと、大変な地域への崩壊が起きてしまいますので、今後とも、地すべりに対しては知事もご理解いただいて、取り組んで行っていただきたいと思っております。

もうひとつ、六十里越街道に関しまして、私も六十里越街道の保存推進委員会の委員長をしておりまして、現状というものをもう少し報告させていただきたいと思っております。六十里越街道をキーワードに志津地区の景観とか、ブラッシュアップ作戦を続けておりましたけれども、今年ですね、県の歩道整備というものがございまして、志津の温泉街の一番重要なところを、六十里越街道の雰囲気損なわないような形で整備していただくということで、県の方も大変ご配慮いただいて、整備を今年もしていただくということになっておりまして、大変それも感謝申し上げたいというふうに思っております。その六十里越街道に関しましては、広域連携ということで、隣の朝日村と「出羽の古道六十里越街道」ということで連携をして活動しております。さらに、山形市と鶴岡市を結ぶこの六十里越街道をキーワードに、中山町、寒河江市、西川町、鶴岡と3市2町で広域連携を図って、大きな山形県の横軸を形成しようということで、今、動きが始まっておりますので、この点に関しましては知事に理解をしていただいて、色んなご支援とかご協力をお願いしたいというふうに思っております。

以上です。ありがとうございます。

知事

どうもありがとうございます。観光のお話しをお伺いしました。私も実は、山形県というのは非常に観光資源に恵まれている県だと思っております。県の中に住んでいると、そ

れが当たり前みたいに思っていますけれど、他県の方から来ますと、非常に山形というところは緑が豊かで、食べ物が美味しくて、そしてゆったり出来る温泉もあって、温かな人情もあってですね、全てが揃っている県だというふうに言われるんですね。ですから、在るがままの山形県を見ていただく、そして山形に来てゆっくりしていただいて、身も心も生き返った様な感じで元気になって帰っていただける、その様なふうにして行きたい。つまり、観光というものに力を入れて行きたい、というふうには私は思っているところでございます。本当に、西川町といえば月山ということで、国内外からこれからもお客様が来て下さるのではないかと、何もしなければそれは分りませんが、一旦来て下さった方々に皆さんで親切にさせていただいて、また来たいなあと思わせていただくとまた来て下さる、リピーターと言うんですけれども、そういう方を増やすとか、あるいは先ほどおっしゃったソウルの事務所ですね、山形の宣伝どんどんして貰って山形に来ていただく、そういう両面の方から考えて行かなければならないだろうというふうに思っております。観光の方は、私もがんばって行きたいと思っておりますのでね、一緒になってよろしくお願ひしたいなあと思っております。

交通のアクセスは、やはり需要と費用対効果みたいのものもあって、民間の経営のバスだとやはり、そういう所もしっかりならないと中々難しいのかなという所もあると思いますが、県の方でもお願ひはしているというふうに聞いております。ただ、その観光客の数を増やして行くという、そのことも大変必要だと思いますし、地元の方々が何よりも熱心になって下さることで、県と一緒にやって行く、その所が大事ではないかというふうに思っております。

後で、その辺についての詳しいこと、総合支庁の方からちょっとお願ひしたいと思いますが、その前に地すべりのお話もございました。私も、今回の鶴岡の大網七五三掛地区に実際に見に行ってみまして、本当に大変な状態でした。私が行った時には、1日に10センチ以上動いておりました。ですから、1週間で70センチ以上動く訳ですよ。それそのままにして置いたら、本当に崩れるだけ、7軒のお家の5軒の方々が避難していらっしゃるんですけれども、「早く戻りたい」、「何とか止めてくれ」というふうなそういう声もございましたし、これは大変なことだと思ひまして県でもすぐ体制組みましたし、国の方にもすぐお願ひしまして、そしてこの度ですね、しっかり国の方も対応しますよということで、国の方からも13億円近くの予算で、直轄でやって下さる。県の方も12億でしっかり対応してとにかくですね、本格的な工事を早く始めて、一刻も早く地滑りの動きを止めるように、本当に努力してまいりたいというふうに考えているところでございます。あそこ1箇所だけかと言われると、まだそれは分りません。でも広範囲に調査していただいて、他の所でそんなに心配の所はないよという調査もいただいておりますけれども、でもやはり全体的にこれからもしっかり注視して見て行かなければいけない。特に、月山の周りですね、そういうふうにして行かなきゃいけない所だろうと思っておりますので、私も心してやって行きたいと思っております。

それでは、総合支庁の方から観光と木道についてよろしく申し上げます。前にも私、メモで頂戴した覚えがございます、これなんとかなんないのかなあと思っております、ちょっと調べて貰いましたけれども、まずあの時冬でしたよね。雪解けないと木道がどうなっているかちょっとわからないというふうなことでございまして、場所的にですね、国定公園ということで国の管理というようなことも聞いておりますけれども、そこも県としてもなんとかなんないのかなあというふうに思っております、少しその辺、検討させていただきたいと思っております。それも併せて申し上げます。

総合支庁長

総合支庁長でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。まず、観光の関係でございますけれども、外国からのお客様をお迎えする、そういった面でのアクセスということかなということでございますけれども、知事から話があったように、非常に需要と供給の関係というのがございます。仙台空港からの関係で申し上げますと、山形市までのアクセスのバスがあった訳ですが、これもガソリンの高騰等もありまして廃止になっているという状況でございます。また、一方で、韓国のお客様が、ウォン安の関係でお話しございましたけれども、ちょっと最近鈍っているかなあという感じもあります。しかし、県全体として韓国からのお客さんの数を見ますと、昨年度ああいう景気状況でありましたけれども、初めて7万人を超えるといった状況に来ております。そういった意味で、全体として見れば順調に来ておりますので、そういった韓国だけのお客様だけでなく、台湾のお客様なり、非常に雪を喜んでいただけるということを知っておりますので、そういった方々をターゲットにして、どういったアクセスと申しますか、交通手段を採ればいいのかということは良く考えて行く必要があるなあと思っております。やはり、需要と供給の関係もございまして、そこは地元の西川町の方とも協力しながら、今後とも継続して働きかけをしたいと思っております。

また、木歩道につきましてでありますけれども、これにつきまして現地を、私どもとしても西川町さんといっしょに見させていただいて、その上で、どういった対応が可能なのかということで、検討させていただきたいとこの様に思います。

保健福祉環境部長

保健福祉環境部長でございますけれども、私どもの環境課がですね、西川町さんに委託して、いろんな維持やっている訳でございますけれども、その辺、良くまた西川町さんとお話をさせていただいて検討して行きたいと思っております。

【4 中山間地直接支払い制度の継続について】

【5 水田の畑地化について】

☆ 町の農業委員と大井沢地区の農作業受託組合の代表をやっております。ひとつ今後の農業問題ですが、今年度で直接支払制度が終わるといようなことなんですが、これらの存続を、是非お願いしたいということが第1点です。と言うことは、非常に高齢化が進んでまして、そんな中で、昔みたいに農業の“結”とか何かが無くなったといようなことで、直接支払制度が非常に大事な問題になって来ております。そんなことで、ひとつよろしくお願ひしたいなあといふふうに思います。また、今年の知事選挙におきましては、吉村知事の方から非常に農業予算を多く取ると、非常に心強く思った次第です。一筋の明るさが見えて来たのかなあといふふうに思ってますし、前々回の高橋知事の時には、畑地化というのをやっていただきました。水田から畑に変えるといようなことで、私達も24ヘクタール程やっていただきまして、現在、耕作が30ヘクタールやっていますが、そんな中で手作業となると今年度で約50ヘクタール位、かれこれしなきゃならないといような状況になっております。そんな中ですね、是非また畑地化の実現というか、大規模農業をやって行くにはやはり水稲よりも畑だと、西川町は豪雪の町でもありますし、やはり水田ではとてもやれないと、やはり畑に変えて行かなければ、やっぱり大規模な経営は出来ないといふふうに考えていますので、今後とも、よろしくお願ひしたいなあといふふうに思います。以上です。

【6 肥料・飼料の値上がりについて】

☆ 入間で農業をやっています。関連ですけれども、特に農家が困っているのは、昨年からは肥料、資材等の値上がり、これらの物によっては6割も高騰してるという様なことで、百姓をやめたらいいんじゃないかといふような声が、多くの方々から聞かれます。そんなことで、県の行政とは直接関係がないと言われるかもしれませんが、資材等の高騰を防ぐような手立てを、是非取っていただきたいということを要望します。

知事

どうもありがとうございます。本当に私は、農林水産業というものを大事と思っております。山形県は農業県だといふふうに捉えております。その販売額がどうのこうのと、工業製品に比べてかなり少ないとかですね、そういう比べ方もありましようが、私はやはり沢山の皆さんが農業に携わっていて、販売している方もあればご自分たちが食べいく分、作っているところもありますし、兼業でやっているところもあります。楽しみでやっているところもあります。色んな皆さん、農業に携わっている皆さん県民にはとても多いといふふうに私は思っております。これからはですね、農業というものは大事にしていかなきゃいけない。そして人間が生きている限り、食べ物というのは、永遠の課題と言いますか大事な物でございます。山形県はとにかく、山形県内で全部食料が賄えれば一番良いと思

っておりますし、日本全体の食料自給率が40%ということで非常に低い、外国からの輸入に頼らないと食べていけない、これは本当に大変良くないことだと思っております。国の方も食料自給率を上げるということでがんばっておりますのでね、山形県もそれに呼応して、やはり食料基地としてがんばってまいりたいと思っておりますし、そのためには、やはり県民の皆さんと一緒に、農林水産業というものを活性化してですね、販売額も農林水産業の産出額もアップするという方向に持って行けたらというふうに考えております。

この4月にですね、農林水産業活性化推進本部というものを立ち上げまして、私が本部長になりまして、ワーキンググループ6つに分かれて、そしてこれから実際どういうふうになっていけば良いんだというようなことを、戦略性を持って検討を始めているところでございます。是非、皆さんも一緒になって、私と一緒に頑張っていたきたいなあというふうに思っております。お話のありました直接支払もですね、平成17年から平成21年度までの5年間の時限立法ということでございます。今年度で終わりというふうに確かになっておりますけれども、県としましても、これを存続していただけるようにですね、国の方に要望という形で行ってまいりたいと思っております。それから、畑地化の話がでました。やはりその地域、その地域にあった農業というものがあると思います。ですからその辺もですね、事業が平成22年度まででございますけれども、継続の要望というものも今日もありましたし、現在検討中でございますのでよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

最後に肥料の値上げという話がありました。値段が上がった時、本当に大変だと思うんですよね。これからもやはり、今、例えば少し下がったかもしれないけれども、また上がる時があるかもしれないということで、非常に自分ではコントロール出来ないことだと思いますので、かなり難しい問題だなあというふうには思っております。ただ、県としましては出来るだけ減農薬とか、減化学肥料あるいは有機栽培的な方法で、エコ農業という言葉を使っておりますけれども、化学肥料をなるべく使わない方向でやっているところなんです。健康にとっても化学肥料の使いすぎは良くないかもしれませんのでね。安心、安全ということでも、化学肥料をなるべく使わないということの方が、消費者の方には多分受け入れられるんじゃないかなあというふうに、私自身も消費者なんですけれども、その様に考えているところでございます。そここのところも大変ではありましようけれども、ご検討いただければありがたいなあというふうに思っております。

水田の畑地化、直接支払、それから肥料値上げということも含めまして、総合支庁の方でも補足ありましたらお願ひしたいと思っております。

産業経済部長

総合支庁の産業経済部長でございます。まず、水田畑地化の件でございますが、全体的には、今、知事が申し上げた通りでございますが、もう少し細かい話ですと、例えば、今

年度新規に岩根沢地区5.7ヘクタールが採択になっております。そして、水田畑地化に関しましては、村山管内、計画通りほぼ順調に進んでおるところでございます。ソフトは、100%を超える様な状況でございますので、ご満足いただけるのではないかというふうに考えております。

肥料の件につきましては、知事が申し上げた通りなんですけれども、要するに肥料の過剰な施肥を控えましょうと、適切な量を使いましょうということで普及の方で、これから指導して行って、少しでも経営に、コスト削減に努めたいという様なふうに考えているところでございます。以上でございます。

【7 杉の間伐材について】

【8 チップに対する運賃補助の継続について】

【9 県産材の公用施設への活用について】

☆ 西村山地方森林組合の組合長でございます。最近、地球温暖化の関係で、国民挙げて林業に対する関心が深まりまして、国も最近、林業に対する予算が確保されまして、ようやく林業も明るい日差しが見えたのかなあと、こういうふうな昨今でございます。知事さんとこんなに近くでお会いするのは2回目でございます、それは1月の寒い日でした。ちょうど森林組合の事務所の前で来ていただきまして、白い手袋をしておりましてけれども、それを脱ぎ取って右、左両方で握手をしていただきました。その手はなんといっても温もりのある、そして柔らかい手でございますので、今もってまだ忘れておりません。寒い日でしたので、知事さんに「風邪をひかないで頑張ってください」とこういう話をしましたら、「私は情熱を持っていますから風邪はひきません」とこういうふうな話でございましたので、その情熱の心が、県民の心を動かし、知事が就任したのではないかなあとこういうふうに思っております、我々として、先程町長さんからも話ありました通りに、東北で初めての女性知事というふうなことで、これから山形県の厳しい行政を舵取っていただきたいなあと、心からお願い申し上げたいと思っております。

前段はその位にいたしまして、森林組合の抱えている問題というのはいっぱいありますけれども、その中から2つ程お願いしたいと、こういうふうに思っている訳でございます。その1つは、杉の間伐事業の実行でございます。戦後造林されました杉は成林を迎えまして、今、間伐をしないと優良な材が生産出来ない、こういうふうな状況になっております。従って、その良質材を作るには今が一番大切な時期でございます、これを今、国、県、市町村挙げて間伐を実行し、我々もその実行部隊として森林組合が担っている訳ですけれども、まだまだその予算的な措置がありませんので、出来れば、今、木材が売れないこういう時期でございますので、まして良質材も売れない時期で間伐材が売れません。従って、地元いわゆる消費者の負担のないような支援策を、特にお願いしたいと思っております。それから、今、合板材それからチップ材について、山形県から運賃補助という様な

ことで、立方当たり千円以上運賃補助をいただいておりますけれども、これもまた継続していただきたい、こういうふうをお願いしたいと思っております。

それから、もう1つは木材の需要拡大でございます。最近、住宅着工が減少いたしまして、全体的に、山形県は住宅着工率が非常に落ち込んでございまして、且つまた、木材を使わない住宅が建ってございまして、いわゆる営々として先祖が植えました杉が、今、売れない時期になってございます。たまたま、西川町も小学校の建築がございまして、平成24年度開校に向けて、西川小学校が今から着々と進められておりますけれども、その学校に、西川の杉を使っていただくということで、町長さんのお計らいによりまして、今、実現してございます。今、その木を伐採し乾燥して、これから製品化しながら開校に向けて頑張っている訳ですけれども、県も、木造住宅が建たない現状を受けまして、公共用建物に是非山形県の杉を使っていただきたい、こういうふうに思っている訳でございます。特に、山形県は雪が多いために、どうしても節が太い状況になっておりまして、雪の重みに耐えながら杉が頑張っている訳ですから、とにかく設計を組みました設計屋さんですと、節のない板とか、それから節の小さな板とか柱とか、こういうふうに要求されますと、非常に出し難いというふうなのが現状でございますので、むしろ、節は心の支えというか、そういうふうなことでございますので、節のある木を使っていただきたい。そして、木はやっぱり温もりがありますので、是非その様な節のある木を使った木造なり、公共用建物を是非実現していただきたいなあ、こういう2つのお願いをし、よろしく願いしたいと思っております。以上でございます。

【11 統合小学校新築問題について】

☆ 私も知事とお会いするのは、今日で3回目となります。あの日は、本当に冬なのに雨が降っていました。白いアノラック姿で必勝の握手をしたのでした。知事就任、誠にありがとうございます。毎日大変なご苦労がお有りかと存じますが、吉村知事の心身ともに健康で、知的に美しく凛としたそのお力は、県民が渴望した存在であります。どうぞ健康に留意され、その意気で益々ご活躍いただくことをご祈念申し上げます。

さて、今、西川町の最大の課題は、統合小学校一校新築問題であります。西川町には、現在8つの小学校があります。そのうち3校は休校となり、5つの学校で子供たちは学習しています。平成になってから建設された学校は3校あり、耐震強度も有り、りっぱな学校であります。町は、ただ今のように平成24年度に現在ある学校を取り壊して、新築一校を目指していますが、多くの町民が建設に反対しているのです。私達は、一段高い所に統合小学校建設を目指す町民の会として、署名活動を行いました。町民の半数を超える3052人が賛同し、新しい学校など要らない、今ある学校を使って行くべきという圧倒的な声でありました。この町民の声を町は無視して、強引に強行している状況です。生きることが即ち政治であります。この町に生きる町民の声を聞かずに、町の大事業を進めるこ

となどあってはならないと思います。学校建設用地は避難場所にも認定できない、西川町の一番低い所に建てるといふ蛮行です。財政的にも本当に大変な時です。町の支出が約10億、国の支出が30億です。平成18年度決算で18億5千6百万円ありました町の基金が、平成25年度には何とたったの2千6百万円になる見込み、調整をして儉約するとは申せ、紛れもない事実です。実質公債費比率は平成18年度21.2%、平成19年度は20.6%、平成25年度学校が建った後ではどの位になるか甚だ不安で、心配で黙って見過ごすことは出来ません。やらなければならないことが山積しているはずですから。吉村知事におかれましては、徹底して無駄を見直し、健全な子供達の成長を願う県政に照らし合わせて、町民の声を無視した無法な西川町当局の統合小学校新築問題を、いかにお考えになりましょうか、是非お伺いしたいと思います。以上です。

【10 森林研究センター（試験自習林）の活用について】

☆ 沼山に住んでおります。現役を引きましてですね、今は農業、林業専門になっております。余生をこれに掛けようということで頑張っております。実は、そうした状況の中でですね、時々山の方に行ってみるんですが、自分が植林をして非常に苦勞して育てた杉ですね、ところが行ってみますと長年構わないで置きましたから、杉は「もう何とかしてくれ」と言う悲鳴を上げているのが現状であります。その様なことでですね、さっき森林組合長も言っておられたんですが、大方の山林はですね、今、手入れが行き届かないものが多くてですね、杉は恐らく泣いているんじゃないかと、何とかしてくれと、こんな状況だと思っております。そういう様なことで私のこの余生をですね、せつかく何十年と育てて来た山をですね、何とか出来ないかとかいうことで願っておるところでございます。色んな政策が出ておるようではありますが、中々これといった、思ったような効果のある政策がないんじゃないかとかいうふうに思います。とかくですね、こういったものはその時は大変うまいことを言うんですがね、結局やって見てもですね、結果は余り良くないということが、大体今までの流れでありますし、うまく行かないと先生だと言うものは、それは別にして知らない振りして、また新しいことを言い始まる、これが今までの経過でありますし、私もそんなこと言われるんですがね、私も、実は役場の職員を40年ほど勤めさせていただきました。その時実は、要望なんですけど西川町にですね、県の林業試験場の実習林、今は研修研究センターですか、と言いまして丁度向かいの沼山の3キロ位ですか奥に行った所に、長沼、大沼、非常にこう風光明媚なですね、そういう場所がありますが、そこに今から35年位になりますか、その時に大体60町歩程度の土地をですね、山を、県の方に試験研究のために売ったんですね、買って貰った。その時は、非常にこの将来をですね、西川町は県の林業の一番中心地だと、こういう様なことで期待を持っておった訳です。そういう様なことで色んな計画があった訳ですが、中々30年もたった現在でもですね、これと言ったぱっとしたものが無い。そんなことを言うとどうもうまくないんですが、県の係の方では、一所懸命になって努力をされておるようであります。地元の沼山も

町もですね、何とかということにそれを協力をしてやっておる訳ですが、中々見えないんですね。やっぱり今の杉の、山林のですね、現況もこの様なものでありますから、あんまり一所懸命やっても、政治の方々は効果がないんですね、それはあんまり一所懸命ならないと、こういう様なことだと思います。それでですね、とにかくそういった状況を踏まえてですね、ひとつ吉村新知事さんがですね、林業試験場のその実習林をですね、是非一回見ていただいてですね、今のこの山林、林業というものに対して、せっかく造ったこの林業試験場の実習林を生かしてですね、なるほど、という様なひとつ効果のある施設に、ひとつしていただく様にまずお願いをいたします。時間がないということでもありますから、中については何れですねお会いでもできれば、あるいは町の方でも町長始め皆知っておりますから、ひとつお話をお聞き願って、是非実現するようにお願いをいたしたいと思いません。最後に、初めて吉村知事さんとお会いいたしました。非常にやさしくて心強い、私の何だかしゃべるのが“しょうすくて”ですね、震えております。是非ひとつ、今日のこの記憶が忘れないで、知事さんの方にも何べんもですね、実現するようにお願いをしてまいりたいというふうに思います。よろしくお願いをいたします。

知事

ご意見ありがとうございます。私も実は山間部で生まれておりまして、林業、農業、周りの人達がそれで生計を立てておりました。私の叔父も林業をやっておりました。杉を沢山植えていたと思います。佐竹貞尚という人なんですけれども、川村林業賞を貰ったこともあります。林業、本当に大事なものだと思っております。それなのにですね、間伐というきちんとした手入れがなされなくなって久しくて、このままだとどうなって行くんだろう、という状況にあるというふうには聞いております。私の小学校時代の同級生もですね、林業をやっておりまして、どうなのって聞きましたら、「やまがた緑環境税のおかげで少し手入れが出来る様になったよ」という様なことを言っておりましたのでね、「そちらの方にも使われているんだなあ」というふうに実感したところでございます。ここの西川町には、西山杉という非常に木目のきめ細かな、木肌の美しい杉があるというふうに聞いております。是非、間伐何とか出来る様になって、県産材として住宅、色んな所に使われる様になるといいなあ、というふうにも思っております。先程のお話ですと、これから小学校に、西川の杉が使われるように町長さんがお考えになっていらっしゃるということをお聞きして、大変安心したところでございます。県産材本当に使っていただきたいというふうにも思っておりますけれども、やっぱり外国材に比べて高いとかですね、そういうことで今まで使われて来なかったんだと思っております。その値段というところを考えると、やはり大変難しいところもあるかなあと、これが一番の解決だというのは中々見当たらないんじゃないかなあというふうにも思っております。ただですね、山形県に本当に良い木があるのに、何故か県外の木をですね、県内に持って来て建てる例もあると聞いております。それは、せっかく木を伐ってもそれを乾燥させる所が少ない、県内には少ないというふうにも業界の

方から聞いているところでございます。ですから、その辺のところも一緒になってやっ
て行かないと、結構難しいのかなと思っておりますけれども、とにかく県産の木はね、使わ
れる様な方向に私も持って行けたらなあというふうに思っております。間伐、まあやまが
た緑環境税を活用した森林整備というのに取り組んで、これからも行きたいと思ってい
ますし、もっと詳しいこと総合支庁の方で分りましたら、そこも補足していただきたい
と思っております。

試験実習林のことお話伺いました。そこ私、やはり見たことありませんが、是非見せて
いただく機会を得たいなあ、というふうに思っております。せっかくそういう所あるので
すから、やはり効果的な使い方というものをして行けたらなあと思えますし、山というも
のは宝物だというふうに叔父が言っていたのを良く思い出します。山は宝だって、先祖か
らずっと言い伝えて来たんだあと、叔父は良く言っておりました。ですから、自分の代に
使えなくても、子孫の代に使える様になるので植えるんだと言って、何万本も植えていた
と聞いております。本当に山の木がなくなったら、土砂崩れ起きたり、良くないこと沢山
あります。木があるお蔭で、その養分というものも出て、川に流れて、海の方にまで流れ
て行って海の生物も育つ、だから、森は海の恋人というふうに言っている方もいるん
ですね。ですから、本当に、森をしっかりと守って行くというのは、大事なことでないかとい
うふうに私も思っているところでございます。細かい所までお返事出来なくて申し訳ない
んですが、総合支庁の方から補足をお願いします。

産業経済部長

何点か、細かいことを申し上げさせていただきます。間伐の問題なんですけれども、ま
ず林業としておやりになっておられる方には、既存からの当然、補助事業がございます。
それで先程ご指摘にありましたように、それが難しくなった方々のために、やまがた緑環
境税というものを新たに設けまして、間伐をやって行くということを決めた訳です。そう
することによって、林業としてだけでなく山、森は県民の共有財産だという位置付けで、
県民全員がひとり千円というようなことで、皆で造って行くというのがやまがた緑環境税
でございます。そうすることによって、全体が調和して行こうという様なことで、計画的
に進めている所でございます。また、先程お話の中にありましたように、間伐材の運送費
の支援というものも、これもやまがた緑環境税で始めたものでございます。まだ、始めた
ばかりでございますので、多少使いづらいつか色々ご指摘もありますので、それにつま
ましては、これからもどんどん直すべきものは直してやっ行って行きたいということ
でございます。さらにということなんです、現在、国の経済対策といたしまして、内容が
まだ調整中のものなんです、森林整備加速化・林業再生事業という新たな事業が生まれ
ます。これが画期的なのは、作業道の開設、間伐、間伐材の加工、流通対策まで一体的
な取組みもやれるというような事業が、これから出てまいります。画期的なものでござ
いますので、期待を持って注視している所でございます。以上でございます。

【11 統合小学校新築問題について】

☆ 町内会長をしておりまして、前に小学校用地選定委員をしました者です。知事さんに申し上げます。その前に、町の当局にはちょっと辛辣な言葉になると思いますのでごめんなさい。

今、国民目線の政治と声高に言われています。今日のように、前向きな県政はともかく西川町はどうか。こういう会合はありませんでした。白紙一任を受けた統一小学校用地選定委員会に、町が最終的に自ら案を提示し、委員は大多数が児童の安全第一に小高いところに賛意を表しました。ところが町は、自らの案を拒否したのです。委員会の会議録も都合の良いように変造し、提示しました。善悪も認識出来ず、委員を無視し、権力を私する。これでは、我が町に未来はありません。鶴岡七五三掛地区に、大規模な地滑りが続いています。第三地層に火山灰が堆積したのが地下水により分離するのが原因と言う。寒河江ダム周辺から志津、旧六十里越に掛けて同じ地層だと言う。最近、私は月山方面に行ってきた。確実に山は動いています。私は、寒河江ダムに10年間勤務しました。ダムは左岸国道側が地盤軟弱なために造られた、東北地方でも稀なロックヒルダムです。地滑り等の土砂の流入によるダムの機能低下、堤体コア部分の劣化等、寒河江ダムに安全神話はありません。大自然の怒りに触れてはなりません。寒河江ダムの下流河岸に小学校建設など未来の県民、当面の児童の安全を思う時、ハザードマップも作らず、常識であり得ないことです。新しく登場なされた吉村県知事、何卒良識あるご判断をお願いいたします。終わります。

知事

どうもありがとうございます。お二方から、小学校のことでご意見をいただきました。色々ご心配なことがあるから仰っているんだらうというふうに思っているところです。私も、県の教育委員を8年間やったことがございまして、教育行政の棲み分けというのがあるのをやはり存じておりまして、小学校、中学校、公立の小中学校というのは、やはり設置者である市町村に任されているのが実態でございまして、県の方がこうやれって言う、そういうことにはなっていないんですね。それを私が全部出来ることになると、私の独裁になってしましましてね、それもやはり問題になるかなというふうに考えている所でございます。正直な所、その非常に詳しい所を分かりませんが、色々なご事情があるのだらうということで、ただ今年から色々な実施段階に入るといっても伺っておりますのでね、是非、町の方からそのご事情と言いますか、皆さん心配ありませんよ、という様なことで、進めておられるのではないかなあというふうに思っておりますので、今、町長さんの方からお話を伺えればありがたいなというふうに思っております。

町長

これは町の問題ですね。私がね、学校問題を出したのは15年3月です。定例議会施政方針で小学校の在り方を検討する、こういったことで表明したのが最初でございまして、今年でもう6年目に入りますね。この間、町民の声を無視、さっき言いましたけれど、そういったことはございません。地区の座談会をやり、各関係団体との座談会をやり、議会の中でも特別委員会を設置していただいて、ずっと検討していただいて、そして今回まで来ております。署名の話もありましたけれども、あれも一般質問の中でも質問いただいておりますし、その都度丁寧にお答えもしております。災害関係のお話も、一般質問の中にも何回か出ております。これもその都度お答えしております。今は、議会で決定していただいたことを粛々と実施して行く、こういった段階であります。私は、町民の大半の方には理解していただいている、そういったことで進めていますのでよろしくお願ひいたしたいと思ひます。なお、この関係についてはね、もう何回も町の特集号でも出してますし、それから財政状況の話もありましたけれども、これも4月15日の特集号で「もっともっと西川町を知ろう」ということで、冊子でね、全世帯に配付してありますので、是非それもお覧いただきたい。以上です。

【12 過疎地域の高齢者対策について】

☆ 民生児童委員です。実は、小山と申しまして、知事さんが育った大江町の沢口から、一峰越えた小山というところに住んでおります。高齢化対策についてお尋ねをいたします。西川町の高齢化率は、今年度34.9パーセントで県内でも特に高いと言われておりますけれども、私の住む集落はですね、町内の特に過疎化の激しい所でしたので、現在74.2パーセントです。その地区に住んでいてですね、今後の高齢化問題が心配になりますので、私の地域の実情をお話申し上げまして、今後の高齢化対策をお尋ねしたいと思ひます。私の地区はですね、昭和30年代は100軒ぐらいあったんですけども、特に過疎化が激しい地域でしたので、色々な事情で、農業衰退とか色々な問題で、今、良くマスコミと言われる限界集落というふうに言われる所ではないかなと言えらると思ひます。県内にこの様な集落が1001箇所以上ありまして、その内10年以内に消滅すると思われる集落が34箇所だと、昨年の山形新聞に報じられました。私の住む集落も、半数が一人暮らし、二人暮らしの老人世帯です。若い人が少なくなった集落の中で、高齢者の頑張りも何れ限界に達し、集落の消滅が加速するのではないかなと、私、思っております。元気な内は、住み慣れた自然の中で幸せに暮らしておりますけれども、夫婦どちらかが病気等で倒れますと、即、生活が困窮してまいります。今年になりまして、私の集落で2軒そうということが起きまして、関係機関と連携取りながら何とか凌いでおりますけれども、これから更にこういった事態が起きると考えられます。そこに住みたい、住み続けたいと言う住民の想ひ、そういう気持ちと裏腹にそういった事態、すぐ生活が苦しくなると言う事態が起こり

ます。民生児童委員の活動の中でも、最も心配されることでありますけれども、県の施策の中に、言われている限界集落と言われる県内の多くの集落と、それから高齢化そして過疎対策の見直しが、これから急務だと、私、思いますので、それらのことにつきまして、県としてどう考えておられますかお尋ねをいたします。以上です。

【13 高齢化社会における生涯学習について】

☆ 西川町公民館連絡協議会です。よろしくお願ひいたします。高齢化社会における公民館活動の在り方についてということで、整理をしてみた訳でありますけれども、今のお話とも関連する訳でありますけれども、地域で公民館の活動をするというひとつの方法というか、色々ある訳でありますけれども、西川町において、やはり高齢者の皆さんと若い皆さんと、或いはその世界を担っている光る方との異世代の交流というものが、非常に大切なのでないか、こんなふうに思っている次第でございます。そういう中にありまして、先週、私は西川町のこの間沢に住んでおりますけれども、その中で健康祭り等をやりまして、100人程の交流会をした訳でありますけれども、間沢から綱取のある神社まで往復した、その中には93歳という方が参加されました。往復して、元気にですね帰って来ました。終わった後の筍汁等も大変美味しかったんでありますけれども、そういう交流会、それから冬にはですね、老人クラブとのそれから子供の交流会等もやっております。この場所で、紙飛行機を一所懸命作って、いかに滞空時間を長くするかという競争等もやらせていただいております。そういういわゆる異世代の交流を図ることによって、何かしら高齢者の皆さんが生きがいと、それから後継者、若い人達に元気を作っていただく、そんな機会を多く取る必要があるのかなあと、こんなふうに思っている所であります。どうしても高齢者の皆さんは、自分達の行事ですと多く参加するんでありますけれども、そういう子供さんとの一緒になったりしますと、半減するという事例もあります。そんなこともあって、もっともっと交流をする場が必要なのかなあとこんなふうに思いながら、高齢者の皆様方の対策というか、生涯現役で活躍出来るその様な場、あるいはこれらのことに対する県内でのある種事例がないのか、そして、それらの公的に対策をする様な方法がないのかと、こんなことをお願いしたいなと、それから介護を要する様なことにならない様に、予防的観点からも、若い人との交流の場を多く作っていただきたいなあと、こういう色々なアドバイスというふうに申し上げますか、そういうことを通して、何か見解をいただきましたら私達の大きな励みになって行くのかなあと、こんなふうに思っている次第でございます。

それから、もうひとつ最後でありますけれども、実は、来年から山形県公民館連絡協議会それから山形県社会教育委員会連絡協議会これが合併されまして、山形県社会教育連絡協議会とこういうふうに包含される予定でございますけれども、いわゆる、そういう関連した組織をひとつにして行くというか、そういう合理的な、機能的な運用するための方策

等を今回取られたことに対して、大変良かったことだなあとこんなふうに思って、他の組織等もそういう所いっぱいあるんじゃないかなあと、こういうふうなことで見直しをしる機会にしていなければなあと、こんなふうな思いで一言発言をさせていただきます。以上でございます。

【14 少子高齢化社会における結婚対策について】

【15 子ども政策室設置の成果について】

☆ 西川町町内会長連絡協議会の会長です。この度、知事さんが就任されましたこと、心からお祝いを申し上げるとともに、大変喜んでおるところでございます。と言いますのは、実は、私も知事さんと同じ地区の出身でございます、学校も小学校は同じ学校を卒業しております。同窓生でございますけれども、年の関係で私が先輩になりますけれども、そういうことで大変親しみを感じているところでございます。残念ながら、学校の方は廃校になっておりますけれども、あの学校の同窓生が知事さんになられたということで大変喜んでおりました、誇りに思っているところでございます。今、知事さんが大きなテーマを掲げております「あったかい山形」、これを今から実行していただきたいと思っております。私の力は何もございませんけれども、陰ながら応援させていただきます。ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

まず、今、皆さんから話ありました、今、少子高齢化の社会でございます、当西川町も三人に一人が高齢者になっている訳ですけれども、今、高齢者の話出ましたんで少子化の方の話をちょっとさせていただきますと、高齢者が増える中で子供が中々増えない、ということでございますけれども、つい先だつての新聞に詳しく出ておりましたけれども、一人子供を生む数、出生率が全国で1.37だそうですけれども、山形県が1.44、全国平均よりはちょっと良い訳ですけれども、新聞によりますと最低の2007年から見ると、0.02程高くなっているという話がありました。新聞で言っておりましたけれども、今、他所の地区を見ますと、適齢期を迎えた方で結婚出来ない男性、それから結婚しない女性が、今、沢山おられる場合ですけれども、少子化対策の一環として、西川町では仲人活動の活性化ということで、結婚推進員を立てるそうですけれども、5名から10名に増員したそうで、今、色々活躍されているようでございます。他所の地区を見ますと、若い人が中心になりまして色々出会いの場を企画し、色々イベントをやっている地区もあるようでございますけれども、そういうふうな状況の中で、山形県としてそういうふうな取り組み方、それからそれに対する支援等がありましたらひとつお願ひしたいと思います。

それから、もうひとつですけれども、安心して子育ての出来る社会と申すことで知事さんは、そっちの方にも力を入れていただいておりますけれども、直轄事業でございます新しく設置されました「子ども対策室」ですか、これも新設された訳ですけれども、まだ3、4ヶ月きり経っていない訳ですけれども、その成果等をお知らせいただければよろしいか

などと思います。以上二つのケースよろしくお願ひしたいと申します。

知事

はい。ありがとうございます。先程、小山に住んでいらっしゃる方からですね、限界集落ということでお話ありました。県の方では限界集落という言葉は使ってございませぬけれども、最近、本当に良く耳にするようになりまして。大学の先生がお使いになった言葉で、65歳以上の人口の割合が50%以上、半分以上が65歳以上の方が占めている集落という意味で使っていると聞いております。本当に、山形県も高齢化率ということでは全国で5番目でございます。確か5番目だと思ひました。ですから、山形県に取って大変な問題でございます。その中でも、西川町さんも、本当にトップを切って良いことだと良いんですけれども、やはり高齢化率、子供さんが少ないということではちょっと寂しいかなあという気がいたしてあります。ただ本当に、一所懸命この社会をね、作って発展させて来て下さった方々が高齢になっておられる訳で、間違いなく私達も何時か必ず高齢になります。私も88歳、81歳の夫の両親と同居してあります。「年取って、もう何にも出来なくなつてはあ。情けない」とか言う時もありますけど、「いや、若い時一所懸命働いてくれたんだから、そんなこと言わなくて良いんだ。今、ゆっくりしてて良いんだ」って、私は言うんですけれどもね、ですから、社会全体でそういうふうに長寿の方に対して、そういう見方は私は持つべきだと思ひてありますし、また、お元気でいらっしゃる方にはやはり生涯現役で、農業でも、何でもですね、やっていただいた方が周りもありがたいし、本人もやはり、私はよろしいんじゃないかと思ひてあります。赤ちゃんだろうが、長寿の方だろうが社会のメンバーであることに変わりはないと思ひます。そういう考えの下に、「知恵袋委員会」というものを私は考へておまして、四つのブロック毎にですね、そういうものを作って、長寿の方からの色んなご意見、提案というものを伺ひして、それも県政の方に反映させていただければありがたいというふうに思ひているところでございます。確かに、限界集落という言葉も、私も、もしここで使わせていただければですね、大変な問題だと思ひておまして、過疎法がもうすぐ切れるんですよ、国の、ですから新しい過疎法ということで、新過疎法というものを是非、今の過疎法が期限切れになってからも新過疎法というもので、国の方からもきちんとやっていただきたいということで、5月29日にその大会をやりました。これからも、しっかり国の方に要望してまいりたいと思ひてあります。また、本当に、これは行政の方からもきちんとやんなくちゃいけないことだし、生活のための交通の確保とかね、色んな、病院というような保健、医療、福祉、本当にそれは一体だ、というふうに町長さんは考へておられるということで、先程視察させていただいた所で伺ったのですけれども、そういう考えがとても重要だと思ひてありますし、とにかく対策を立てていかなければならない領域だというふうに思ひてあります。と同時に、結婚、出産、子育て、これは本当に喫緊の課題だというふうに思ひてあります。山形県の人口120万人を、平成19年度に割つてしまいました。これ戦後初めてでございます。

その後もですね、人口減少加速が増しているんですよ。それは子供の数が、出生数が減ったということと同時に、若者が県外に流出しているその両面ございます。社会と同じですけれども、県内に仕事がないというのが大変大きなことかと思っております。ですから、その面からも県としてしっかりやっていかなきゃいけないというふうに、今、考えております。結婚の方はですね、本当に女性に生め生めと言って、そんなの汲んでいただける訳ではありません。やはり社会全体でですね、若者の就職というものを考え、また、結婚というものもサポートして、それで出産の時、育児の時も皆でサポートしてというふうにやってみないと、これは一気に解決しない問題だと思っております。今年の四月に、「子ども政策室」という組織を知事直轄で作りました。そこで一体的、横断的にこれからその問題について取り組んで行く考えでございます。成果と言われましても、「子ども政策室」についての予算というものをこの議会、来週の23日から議会が始まります。そこに予算を提出しますので、そこを通していただいてしっかりやってまいりたいというふうに思っております。細かい所ではですね、保育の問題とか、病児・病後児保育の問題とか色々な細かいことございます。それから、お母さんが小さい子供を連れて、「こども館」という所に遊びに連れて行った時の駐車料の一部を無料化するとかですね、とても細かい所もやっております。大きくはですね、「子育て山形県民会議（仮称）」というものを立ち上げて、県民全体で応援して行くんだよということをやって行きたいということと、「山形県子育て条例（仮称）」というようなこともしっかり県の柱として作って、一年位掛けて作って、そしてしっかりその下で施策をやって行こうというような、大きな所、細かい所両面から、やって行きたいというふうに思っております。

生涯教育ございましたけれども、いつまでも元気で過ごしていただくのが一番なんですね。それがやはり福祉にも繋がりますし、医療にも繋がっております。出来るだけ元気で、長生きというのが一番良いと思うんです。そして、しかも社会のお役にも立っていただく、そういうふうにしていただくのがご本人に取っても、また周りの方々に取っても、県全体に取ってもありがたいことだと思っております。西川町さんの取り組み等を、色々お聞かせいただければありがたいなあ、というふうに思っておりますのでよろしくお願ひします。

結婚支援のことなんですけれども、まだ発表まではしておりませんが、出来ればですね、子育てからじゃなく結婚の方から、各市町村でやっている所も既にございますけれども、行政が直接やるかどうかはともかく、間接的にでも結婚のところからやはりやって、お手伝い、サポートということをやってみればなあというふうに考えております。

【11 統合小学校新築問題について】

☆ 先程出た問題でございます。町内入間の者です。今年は満の米寿と言われ、呆け掛かった老人なのでご面倒を見て下さい。最初に、あたたかい県政を唱える知事さんのあたたかい美しさと、愛と英知の発露である、いち早い本日のご訪問に、心からの敬意と感謝

を申し上げます。なお、知事選の中でのあたたかい握手、どなたかもさつき申し上げておりましたが、私は手袋の上からでしたが、大変あたたかかったです。今日の質問を、冥土の土産にさせていただきたいと思います。八十と九にもう少しでなりますので。

第一問は、先程とダブるかもしれませんが、教育に関することです。第一問は、学校教育法第三条のはじめに学校の設置基準は、監督庁の定めるところに従いとありますが、市町村立小中学校の場合、監督庁とは県教委の事ですか、県ですか。県はどの様に係わり責任を持つのですか、というのが第一問です。学校の設置基準です。第二問は、知事さんは「子ども政策室」を設け、次の時代を担う子供を格別大事に育成する施政方針を示されていますが、子供の学校生活が何よりも安全な環境で行われることを、学校設置の第一条件とお考えられますか。当町の統合小学校成立の環境をご存知ですか。ぜひ、ご覧をいただき、子供に対する大人本位の施策をご見聞の上、ご生来の強さでご教授を賜りますようご期待申し上げます。私の質問を終わります。なお、第二問については、私の質問が不当であるかどうかをお答え下されば結構です。

村山教育事務所長

村山教育事務所です。よろしく申し上げます。先ほどの質問の中で、知事のほうが棲み分けということをお話しておりましたが、県の役割として大きく四点ございます。一つは教育振興のための基本方針の策定、現在ですと「第五次山形県教育振興計画」ですがその策定です。二番目が指導主事等による教育内容及び学校運営の指導助言になっております。三番目が小中学校による学級編成の基準、現在ですと「教育山形さんさんプラン」があるかと思いますが、それに合わせた教職員の定数の設定があります。第四点が教職員の任命と給与の負担です。これが県の役割となっております。市町村の方は、先程お話出ましたけれども小中学校の設置及び管理、それから具体的な教育課程の決定、教科書の採択、そして教職員のサービスの監督、こういう棲み分けになっております。よろしく申し上げます。

【16 婦人会活動について】

☆ 西川町婦人会です。まず始めに、この度、山形県知事に就任なされました吉村知事、誠におめでとうございました。心よりお喜び申し上げます。山形県の更なる発展に期待を寄せておるところです。さて、私どもの婦人会、地域と関わって活動いたしてまいりましたが、ここに来て、婦人会離れが目立つようになりました。都市化が進んだせいでしょうか、時代が移り変わるとともに物事に対する価値観の相違が生じているのでしょうか、私は、何よりもこの西川町に住むひとりとして、町の発展を望み、また期待を寄せながら、地域との繋がりが持てる婦人会でありたいと願っておるところです。我が山形県、県勢発展に力を注がれる吉村新知事、女性知事です。これを機に、私どもも女性のひとりとして、知事から沢山の啓示をいただきながら、婦人会活動に努めてまいりたいと思っておるとこ

ろです。我が西川町婦人会、地域においても西川町当局からは沢山のご支援、またご指導を賜り、この席をお借りして厚くお礼を申し上げて、私の一言のお話とさせていただきます。本日はありがとうございました。

☆ 睦合の者です。知事さんにおかれまして、婦人会をどう思っているのでしょうか。これから婦人会はどうあるべきでしょうか、という質問です。よろしくお願いします。

知事

はい。ありがとうございます。そうですね、実感で言えば、私が育つ時に私の実家の母が婦人会に入っておりましたし、親戚の叔母も婦人会の役員等をやっておりましたことを思い出しております。やはり、戦後ずっとどんなに小さな集落であっても婦人会活動というものがあって、女性達の活動というものをしっかり発展させて来てくれた母体なのだろうなあ、というふうに思っております。実は、第1回目の南陽市のミーティングにおいても、婦人会活動でね、その会員が減少して本当に大変なんですけど、何か方法ないでしょうかみたいなお話があったんですね。やはり婦人会の会員が減少しているというのは、やはり県内全域の問題なのかなあ、というふうに捉えているところです。35市町村のうち、婦人会があるところを今調べてみたら19市町村なんですね。だから、大分減っております。それは、本当に何故なのかと考えてみますと、一つの答えだけではないだろうと、やっぱり複合してそうなっているのかなあと思っております。やはり女性の生き方も多様になっておりますし、また、働く人も増えておりますし、その考え方というものも、社会というものをちょっと余り考えなくなっているというか、自由の方に少し重きが置かれて来るようになってきているのか、その婦人会の活動というもの、今、実際どういうふうな活動の方になっているかということ、ちょっとお聞きしないとまだ私も分からないところもございますけれども、色んな色んな事情があって、その様になっているのかなあというふうに考えているところです。でも、本当に今まで色々活動して、今の社会というものを造って来て下さった女性の活動というものを、支えて来て下さった母体だというふうに私は思っております、出来れば時代に合わせて少しずつまた変わって行くというか、そういうところもあってもよろしいのかなあと、例えば、皆さんがお元気で地域で活動していただいている訳ですから、そのこと自体がやはり地域にとっては“力”な訳です。ですから、ボランティアとかですね、色んな行政と一体となってやれることもいっぱいあると思いますし、社会的に活躍できる場は、沢山あるんじゃないか、というふうに思っております。お隣の婦人会との連携とかですね、色んな、もしかしてやっていらっしゃるのかもしれないけれども、また、楽しみという様な視点もあるかとも思いますし、色々な要素を取り入れつつ、地域の力として、これからも発展していただきたいなあと思っておりますのが私の気持ちでございます。町長さんそれについては、どう思われますでしょうか。

町長

現在、少子高齢化が進んでおりますので、婦人のパワーというのは、西川町の最大のエネルギーだと思っております。今、色んな面でご活躍いただいておりますし、色んなご意見もいただいておりますけれども、継続は力といたしますけれども、色んなことに挑戦もなさっている大変りっぱだ。是非、前を見て進んでいただきたい。この様に私からもお願いして置きます。女性の元気な町は必ず活性化されます。よろしく申し上げます。知事が女性です。

【17 弓張平運動公園の利用状況について】

【18 合併浄化槽設置に係る助成について】

☆ 本道寺地区会の者です。先程、観光関係では随分お話がございましたので、ただお礼だけ申し上げます。風吹地内を県の方の大きな力で、国道の脇に歩道を造っていただいて現在おります。それが旧六十里越街道ずっと続けられる形が出来たということにつきまして、お礼を申し上げたいと思います。こうして見ますと、知事さんの美貌に圧倒されて、中々質問の口がうまく出ない様でございますが、私から二つ簡単にですけれども、西川町も県も同じでございますが、体育振興の町、県でございますが、平成4年国体が行われた時は、月山湖でカヌー競技が行われたのは昔の話ではございますけれども、それと同時に、内陸と庄内の中心地が現在の本道寺地区内でございます弓張平公園に当たる訳で、その公園に、総合の運動公園が造られた訳でございますが、現在の管理につきましては管理者制度が出来まして、その機関に委託されておる様でございますけれども、この運動公園の利用状況これらについて、過去からずっと出来上がってからですけれども、現在の状況をちょっとお聞きしておきたいなあと思いました。

それからもう一つ、まるっきり別な質問でございますけれども、西川町も生活環境の整備に力を入れて上下水道、これをずっと続けられておる訳で、上水道はもちろんですが、下水道の方も本年度で大体計画された地域は終わるということでございますけれども、まだまだ接続関係につきましては非常に進捗状況が遅い様ですし、一方、下水道が出来ない所は、合併処理浄化槽で対応している訳でございますけれども、その合併処理浄化槽の国からの補助、それから県の方からの補助、町からの補助という形で、今、補助金が出てると思いますが、お話によりますと前知事さんの時代に、予算の方が一律カットの中で、カットされて補助が出てないという話がございますが、それが本当なのか、それが出来ないとなれば、出来るだけ県の方からも応援していただきたいと、この様に思ったのでした。以上二つでございます。

知事

本当に、皆さん色々ありがとうございます。まとめてお礼申し上げますけれども、本当

に選挙の時もですね、握手していただいて私の方こそ皆さんから力を貰ったところがございます。皆さんからの応援のお蔭で知事になりましたし、また、今もですねその力をいただいたお蔭で、益々元気が出て頑張っているというところがございます。ただ今のお話ですけれども、二つともちょっと、運動公園がどの様に使われているか実態を知りたいということがございますし、合併処理浄化槽の補助がどうなったのかというようなこと、この二つについて、村山総合支庁の方から教えて下さい。

建設部長

建設部長ですが、弓張平公園の利用状況については、今、手元に、申し訳ありません経年の利用状況の資料ございませんので、後程まとめてお答えをさせていただきたいと思えます。

保健福祉環境部長

合併浄化槽の補助でございますけれども、17年までありまして18年から廃止になっております。その代わりですね、特別交付税の措置というものがございまして、まだ県が補助を出していた頃と比べると若干差があるということで、私どもとしましては、国の方にその拡充について、現在、働き掛けているというような状況でございます。